

## サケ類

北海道のサケは世界で有名です。釧路周辺では、サケ（学名：Oncorhynchus keta）、カラフトマス（学名：Oncorhynchus gorbuscha）、サクラマス（学名：Oncorhynchus masou）という3種のサケ類が一般に見られます。

サケは、釧路周辺の海で優勢なサケ類の一種です。最もよく知られているのは、その橙色の大きな卵です。サケは、オホーツク海、北太平洋、ベーリング海に出て、約4年をかけて成熟します。その後、死ぬ前に一度だけ産卵するために、生まれた場所に戻ってきます。毎年、9月から12月の間に、10万匹を超えるサケが釧路川を遡ります。1876年以降、繁殖計画が健全な数の維持を助けてきました。

カラフトマスは、世界で最も数の多いサケ類であり、太平洋とオホーツク海に生息しています。北海道では、カラフトマスは釧路から知床に至る東海岸沿いの川で産卵します。産卵期の間、オスは背にこぶができ、歯が大きくなります。これは、メスが生んだ卵を受精させるために、競合するオスと戦うのに役立ちます。

サクラマスは、一生の半分を川で過ごし、半分を海で過ごした後、生まれた川に産卵のために戻り、死にます。サクラマスの分布範囲は限られており、成熟後は北日本の沿岸部にとどまっています。